

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎特集 都道府県 IYEO の自主活動
(財)青少年国際交流推進センター 5年の歩み

マクロコズム '99.5



vol. 28

(財)青少年国際交流推進センター

自らも楽しみながら地域の国際化を!

助青少年国際交流推進センターの設立から5年を経て、各都道府県 IYEO も着実に基盤を確立し、都道府県行政との連携のもとに総務庁の青年国際交流事業を中心とした様々な国際交流事業を通じて地域の国際化に貢献できる体制ができつつあると思われます。また、ここに紹介するような独自の自主活動を地道に展開することで、自らも楽しみながら、仲間や地域との連携に努力している IYEO 会員の努力を実感できます。

真の地域の国際化のためには、まず、自らが楽しみ、そして周りの人々とコミュニケーションの楽しさを共有することが第一歩でしょう。



◀ 「モンゴルの子供たちの描いた絵」展覧会

とっとり青友会 本文 P.13

徳島県青年国際交流機構 本文 P.16

▼ 無国籍パーティ



▲ '98 Globe Party Love & Peace

長野県青年国際交流機構

静岡県青年国際交流機構 本文 P.17

▼ 秋空ウォーキング



▲ 国際交流キャンプ

岡山青年国際交流会

宮崎県青年国際交流機構



▲ 国際交流のつどい(ふれあいinMIYAZAKI)

栃木県青年国際交流機構

▼ フレあいクリスマスパーティ



船と翼の会ふくしま

◀ 国際交流スポーツ大会(Jヴィレッジにてサッカー大会)



都道府県 IYEO の自主活動

愛知県青年国際交流機構 本文 P.14



▲ ホームステイ受入説明会（「第11回世界青年の船」参加青年による事業説明も含む）



◀ アジア理解写真パネル展
山梨県青年国際交流機構

徳島県青年国際交流機構

▼ 青年国際交流事業写真パネル展



岡山青年国際交流会

▶ 国際交流パネル展



財青少年国際交流推進センター設立5周年

の組織に更なるサポートを展開していけたらと願うものだが、力量に大きな差があった日本青年国際交流機構の各都道府県組織も整いつつあり、活動を展開できるだけの力がついてきたと思う。各地で総務庁青年国際交流事業の受入が盛んになっ

ていることを見ても、隔世の感がある。基盤作りとしての5年を経過して、次の5年間は大きく発展できるように全国の仲間と手を携えて進んで行きたいと思う。

5年を振り返って歴史をたどる

財青少年国際交流推進センター
交流企画部長 大橋 玲子
(日本青年国際交流機構事務局長)

常勤職員2名、非常勤職員1名からスタートしたスタッフ体制も6年目の今年は、常勤職員6名、非常勤職員1名にまで増えました。

財団及びIYEOを支えようと職員一同も必死に

務めてきましたが、振り返れば「涙あり笑いあり」で、短かったような長かったような5年間でした。

スタッフは少なくとも、とにかく多くの方に支えられてきた5年間でした。5年という区切りを記念して、それぞれの年の主な事業や初めて取り組んだ事業の写真で財青少年国際交流推進センターと日本青年国際交流機構の連携の歴史を振り返ってみたいと思います。

平成6年度(1995年4月～1996年3月)

財青少年国際交流推進センター設立記念パーティ (5月20日)



▲ あいさつをする山田馨司理事長

当日は、財団設立にご尽力下さった多くの方々がお集まり下さり、全国から都道府県IYEO会長の皆さんも出席してくれた素晴らしい会であった。

SSEAYP インターナショナル第7回総会

(於：経団連会館)

第7回総会を記念し「国際家族年」にちなんで家族の役割についてをテーマに開催された国際ナショナル・ユース・フォーラム





◀ レセプションに「第14回東南アジア青年の船」事業に参加された秋篠宮妃殿下の御臨席を賜る

▶ 第7回総会を記念してSSEAYPインターナショナルの共通活動として開催された「アジアのこども絵画展」。最優秀に選ばれたタイの作品の前で集まるタイの参加者



国際青年交流会議基調講演

「国際交流の在り方について」

猪口邦子上智大学教授

(財青少年国際交流推進センター評議員)

国際青年交流会議

INTERNATIONAL YOUTH CONFERENCE

11 JUL. 1994 TOKYO YOUTH AFFAIRS ADMINISTRATION 総務庁青少年対策本部
CENTER FOR INTERNATIONAL YOUTH EXCHANGE (財) 青少年国際交流推進センター



国際青年交流会議

(1994年7月1日/於：東京全日空ホテル)

皇太子御成婚記念事業として実施されている国際青年育成交流事業の一環として、本事業により海外に派遣される日本青年及び海外から日本に招へいされた外国青年などが一堂に会し開催されており、その第1回目であった。

会議終了後のレセプションには、皇太子同妃両殿下の御臨席をいただいている。



◀ 外国青年となごやかに懇談される皇太子同妃両殿下

日本青年国際交流機構第10回全国大会東京大会（8月6日～7日）

財団設立と第十回全国大会が重なり、全国の仲間とIYEO設立十年と財団設立を祝うとともに新たな出発を語り合った楽しい時間であった。

▶ 第10回記念として「ふじ丸」船上で実施
（東京から名古屋へのクルーズ）



第1回日韓青少年指導者交流事業

両国政府が共同事業として行っている日韓青年親善交流事業の韓国側受入団体である韓国青少年交流振興協会との間で始まった相互交流事業。

平成6年度は10名ずつの招へい、派遣を実施した。平成7年度は20名の交流となった。

青少年国際理解セミナー

総務庁青年海外派遣事業参加青年の帰国報告会を「航空機による派遣事業」「東南アジア青年の船」「世界青年の船」の3回、青少年国際理解セミナーの一環として開始した。



▲ JICA の研修生も交えての分科会

「第7回世界青年の船」課題別視察の実施

「世界青年の船」の参加外国青年に対する日本国内プログラムの一つとして、この年初めて行われたもので、その後継続して実施されている。実施に当たっては日本青年国際交流機構がコース手配なども含めて運営にあたった。

「世界青年の船」第1回インターナショナル・リユニオン（東廻りコース）

「第7回世界青年の船」の寄港地であるメキシコのアカプルコで、日本青年国際交流機構の主催で行われた。（1995年3月）



平成7年度（1995年4月～1996年3月）

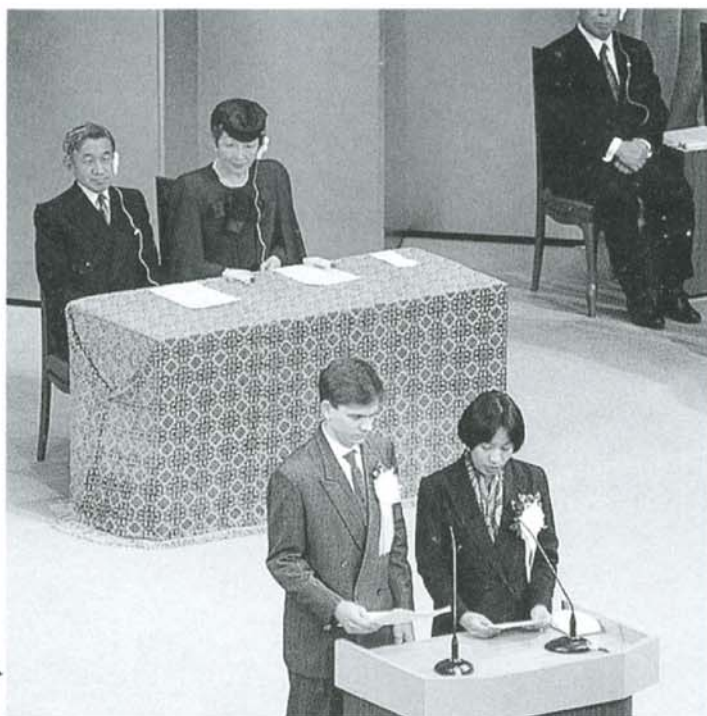
「戦後50年を記念するつどい」における外国青年招へい

1995年12月18日、戦後50年を記念し、将来の我が国及び世界の平和と繁栄を期するため「戦後50年を記念する集い」が日本政府主催のもとに国立劇場で開催された。

当日は、天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁判所長官、在本邦外国代表を初め、内外の代表1,300名が出席した。また、このうち外国青年代表として招へいされた41か国82名については、財青少年国際交流推進センターが受入れを担当し、国内滞在5日間のプログラムを企画、運営にあたった。式典では、三権の長及び在本邦外交団のあいさつ、天皇陛下

財青少年国際交流推進センター設立5周年

のお言葉に続いて、外国青年代表と日本青年代表のスピーチが、それぞれ男女一組によって発表された。外国青年代表スピーチは、2名の代表者各個人の部分と82名の意見を集約した共同スピーチの3部から構成されており、共同発表スピーチの部分については受入委員会の素案を招へい外国青年が全員で検討して起草委員会のもとに決定した。



外国青年代表としてスピーチを行うブラジルのボルバト氏とインドネシアのサヌシさん ▶

「世界青年の船」既参加青年連絡会議の受入れ（東京会議）（1996年1月）

「世界青年の船」第1回インターナショナル・リユニオン（西廻りコース）

「第8回世界青年の船」の寄港地であるアラブ首長国連邦のドバイで、日本青年国際交流機構の主催で行われた。前年のアカプルコ・リユニオンに続いて開催されたもので、これで東西の足並みが揃って、以後隔年で東西を交互に実施してきている。（1996年3月）

平成8年度（1996年4月～1997年3月）

アジア太平洋青年招へい事業

戦後50年を記念して、平成7年度に始まった事業で、8年度から受入れに携わる。

アジア太平洋地域29か国を対象に行われており、招へい国は年毎によって若干異なる。



子供達と一緒にイモ掘り体験（徳島県）▶

第12回青少年国際理解セミナー

「近代社会の終焉の先にあるもの」
上智大学教授 松尾 弑之
（「第7回世界青年の船」团长）▶



平成9年度（1997年4月～1998年3月）

日中国交正常化25周年記念 中国青少年指導者招へい事業



▲ 基調講演を行う石川忠雄(財)青少年国際交流推進センター会長



日中国交正常化25周年を記念して12月4日から13日まで19名の中国青少年指導者等が総務庁青少年対策本部によって招へいされた。事業実施に当たっては、日本青年国際交流機構のメンバー（「日中青年親善交流」事業既参加青年）で実行委員会を構成し、東京と沖縄において受入れを行った。招へいプログラムの中で「日中青年国際交流推進会議」を開催し、今後の連携活動について話し合った。



▲ 平和記念資料館の記念碑前にて（沖縄県）

財青少年国際交流推進センター設立5周年

「東南アジア青年の船」国内受け入れプログラムへの参画

「アジア青年のつどい」開催のための実行委員会事務局を日本青年国際交流機構が初めて務めることになり、大森会長が実行委員長を受けて行った。



平成10年度(1998年4月～1999年3月)

「東南アジア青年の船」第25回記念事業

「東南アジア青年の船」第25回記念事業として「記念フォーラム」を行うにあたり、ASEAN 9 各国の政府代表者と7 各国の事後活動組織代表者が招へいされた。

「東南アジア青年の船」第25回記念フォーラムは11月24日、赤坂プリンスホテルで開催された。終了後、記念パーティが行われ、小淵内閣総理大臣が出席し、日本政府を代表してご挨拶された。



▲ SSEAYP インターナショナルを代表してフィリピン事後活動組織の同窓会会長がスピーチ



◀ 記念パーティ会場にて、フィリピン参加青年に囲まれて笑顔の小淵恵三内閣総理大臣

「モンゴルの子供達の描いた絵」 展覧会

とっとり青友会会長

河崎 忠義



現在、鳥取県では国際化への大きな取組みの柱として、北東アジア諸国との交流を活性化させています。そのなかでも、モンゴルは最も交流経験の浅く、また未知の部分の多い国です。その方向性が手探りの状態であった3年前、私たちは、「世界絵本交流事業」の対象国として、当時来県していたモンゴル人の国際交流員と仲よしになり、日本文化紹介、日本語の教材として、日本の絵本を贈ることが出来ました。贈る先は、モンゴル中央州ゾーモント市の第1、第4中学校、モンゴル国立文化大学などでした。この時贈った絵本の総数約5,000冊は、東京の「ハーモニセンター」の一方ならぬ力添えにより、金沢空港からモンゴルへの回送便となる輸送機があることから、それを使って届けていただけました。

こんなに大量の絵本を集めるきっかけとなったのは、鳥取県からの入植者のいるブラジルサンパウロ州の日本語学校の先生から「2世、3世と世代が進み、日本語や日本文化を忘れかけている子供達へ、教材としての絵本を送って欲しい」という呼びかけからはじまりました。このことが新聞

紙上で取り上げられたことにより多くの反響を呼び、全国から個人はもちろん、学校などの団体約300組から10,000冊を超える善意をいただけました。

昨年の12月、ゾーモント市立第1、第4中学校より、絵本のお礼にと子供達が絵を31点「とっとり青友会」へ贈ってくれました。描いてくれたのは8歳から15歳までの子供達で、テーマは「夢」です。都市的なビル群のにぎやかな街を描いてある絵。丸い地球のうえでみんなが仲よく手を繋いでいる絵。草原のなかを大きなトレーラーにゲルを乗せて、馬や荷物は飛行機からパラシュートで降ろしていたりするモンゴルの未来の絵。

子供達の絵を見てると、この絵に込められている夢や希望は、大切に育てあげたい、それは我々の責任でもあることを強く感ぜずにはいられません。展覧会の会場は「鳥取空港国際会館センタープラザ」で開催しました。定期国際便の招致に取り組んでいる県の活動をバックアップしたいとの思いからです。期間中はチャーター機の発着があり、普段よりも多くの人々が空港に来られることを見込んで2月開催の決定をしました。結果は大成功。モンゴルのPRはもちろん、私たちの活動や世界絵本交流事業のこと、モンゴルと交流をしている地元小学校やたくさんの人々との出会いなど、成果をあげればきりがありません。地道な活動とイベントとのミックスバランスの必要性を学ぶ良い機会となりました。

「受入れ側」としてのチャレンジ

愛知県青年国際交流機構

藤田 摂子

(「第9回世界青年の船」)

今年、愛知県では「第11回世界青年の船」のアメリカとベネズエラの青年を受入れることになりました。

まず、昨年5月、IYEO愛知の会員・休会員希望調査の際、「受け入れに興味があるか？」のアンケートを行い、「興味がある」と返答のあった会員に対し、10月に青年たちの愛知での滞在予定と共に詳しいアンケートを送付しました。

今回の受入れでは、ホストファミリーには、会員以外からも候補が上がり、受け入れ未経験のご家庭を優先に選びました。愛知県の場合は、県の派遣のOB会へもホストファミリーをお願いすることになっているので、IYEOで担当したファミリーは9家族となりました。また、新しい試みとして、施設見学に「私立同朋高校」を加え、次世代を担う若者との交流を取り入れました。先生方のご協力もあり、新しいつながりが生まれ、大成功だったと思います。その「同朋高校」からもホストファミリーを2組募集しました。ファミリーが正式に決定したのは、総務庁から参加青年の名簿が到着した12月の半ばでした。その後もホストファミリーの方々には、報告書を送付したり、先日行った総務庁事業報告会&説明会をご連絡したりしています。

ホストファミリー・ミーティング

色々と新しいことにチャレンジした今回の受け



▲「第11回世界青年の船」壮行会で勢ぞろいのIYEO愛知のメンバー

入れでしたが、その中の一つに、「ホストファミリーミーティング」がありました。年の瀬も迫る12月23日に開催しました。書類だけではわからない情報やアイデアを交換するのと、お世話になるファミリーと顔の見える交流を事前にしておくと、お互いに受け入れがより楽しくできるのではと考えたからです。

資料に沿った事業の概要説明をIYEOができる範囲で行ったほか、「第11回世界青年の船」の参加者がプログラム内容や航海中の参加青年への郵便の送り方を説明したり、そして参考のためにまとめたホームステイ・ワンポイントアドバイスも配布しました。質問タイムでは食べ物に関することが良く出て、「鍋料理がいいのでは?」「青年達と一緒に買い物に行って作っては?」といったアドバイスが出ました。

当日、外国青年との交流はとても新鮮で、楽しい時はあっという間に過ぎてしまいました。受け入れの1か月後、報告書が完成しました。その内容は40ページにも及び、受け入れに関わった皆

の想い、頑張りが形となった1冊になりました。

私にとって今回の受入れは初めての経験で、担当に決まった時は、右も左も分からない状態でした。しかしながら、初めの頃の企画から報告書までトータルに関わることになり、たった2泊3日の受け入れに、準備から報告書に至るまで多大な時間と様々な知恵とたくさんの協力が必要なおことが分かりました。ミーティングを重ねてゆくこと

で、初めはぼんやりとしていたものが徐々に形になってゆく過程に携わることができたことはとても良い経験になりました。私自身としてはこの受け入れは「受入れスタッフ側の楽しみ」の新発見でした。今は、この受け入れに協力していただいた皆さんに「ありがとう。」の気持ちでいっぱいです。この受け入れの経験を、ぜひ次回に活かすことができればと思っています。

お手伝いさせて下さい ～「東南アジア青年の船」受入れへの協力～

北海道青年国際交流機構副会長
上森奈穂美

(「第7回世界青年の船」)

全国推進会議の資料で、北海道に「東南アジア青年の船」の青年達がやってくることを知ったとき、「今年こそは何らかの形で関わりたい」と強く思ったものの、北海道での受入はそれまでは全て北海道庁側が一手に引き受けており、北海道青年国際交流機構は一切関わっていないというのが前年までの状況でした。東南アジア青年の船の受入に向けて、ことあるごとに道庁の担当の方に「何かお手伝いをさせてください」とお願いしていたところ、「千歳空港での出迎えから札幌市内までのバスへの同乗、そしてホストファミリーとのパーティに参加してもらえないか」という嬉しい連絡がありました。

参加青年達は、午後千歳に到着してバスで札幌市内へ直行、道庁表敬訪問の後、「冬のスポーツ博物館」見学をしてホストファミリーとの2泊3日のホームステイ。その短い時間の中で、既参加青年としてお手伝いすることが出来ただけでもラッキーだったかもしれません。当日は、千歳での出

迎えから参加したメンバー3人に加え、パーティには、インドネシアから留学中の「東南アジア青年の船」の既参加青年他、IYEOのメンバー数名が参加しました。アセアン青年たちも、私達が既参加青年であることを知るといろいろと話しかけてくれました。今回はお手伝いしたというよりも、私達自身が自分たちの時を思い出し、楽しい時を過ごしたと言った方がいいかもしれません。

ハードなスケジュールをこなしている参加青年にとっては、バスでの移動時間は貴重な睡眠とホストファミリーに披露する歌の練習時間。次回の受入の時には、スケジュール作成の段階でアドバイスも出来たらと感じました。スケジュール作成や人員確保で苦労されている他の支部の方に比べるとまだまだですが、何事も小さな一歩から!

平成11年度は残念ながら受入れはありませんが、今後とも北海道庁との連携を強め、頼りにされる北海道IYEOを目指したいと思います。

各国の伝統文化の紹介と無国籍パーティ

徳島県青年国際交流機構
都築 智子

昨年12月12日(土)に、徳島県IYEO主催で、「各国の伝統文化の紹介と無国籍パーティ」を行いました。

夕方6時半からということもあり、パーティに参加する目的で来られた方だけでなく「何となく中の様子が気になって…」というような飛びこみの方も含め、100人余りの参加となりました。もちろん、私達日本人だけでなく、県内に留学や研修、英語の指導助手等様々な理由で来られている外国人の方も、半数近く参加されていました。

簡単なあいさつが行われた後、パーティが始まりました。最初は初対面の方と、しかも外国の方と会話をすることを恥ずかしそうにしていた人達も、軽食を用意していたテーブルの周りから、だんだんと離れていき、あちこちで話の輪がつかられていきました。国も習慣も違う人達が集まり、言葉の壁を越えて会話をはずませていました。

そんな中で、私は徳島県IYEOが主催している

日本語教室の生徒さんや、カンボジアやベトナムから来ている留学生と話をしましたが、彼等は皆、「日頃、自分達以外の人達と話をする機会が少ないが、こういう機会があれば、他の国の人や、初めて会う日本人と知り会えるばかりでなく、同じ国から来ている人達とも会えるので、もっと機会が増えるといいのに…」と言っていたのが心に残りました。このパーティは、会話だけでなく、異文化にも触れてもらおうと、参加していた外国の方達に、伝統文化を披露してもらいました。沖縄の民謡や伝統音楽にあわせて踊る「カチャーシー」をはじめ、インドネシアのバリ舞踊等、「さまざまな異文化に触れ、楽しもう」と参加者達も熱心に見入っていました。

今回のパーティでは、国際交流を堅苦しいものでなく、もっと気軽に身近なものとして感じてほしいと催したのもだったので、参加者一人一人が、2時間半を思いきり楽しんでくれたことで、成功だったのではないかと感じています。また、出入口に設けた、「総務庁による各種派遣事業のパネル展」にも多くの方が興味をもっていただき、EXCHANGEやマクロコズムを(本部から大量に送っていただきました)持ち帰られた方も多くいました。IYEOのPRにもなったのではないかと思います。なかなかこういった機会を作っていくのは難しいですが、これからも出来る限り作っていくと思っています。



歩いて、歩いて、シュラスコ ～ 秋空ウォーキング～

静岡県青年国際交流機構
本波 稔久

(「第21回東南アジア青年の船」)

「歩いて、歩いて、シュラスコ?」、はじめてこの言葉を聞いたとき、いったいどんなイベントなんだろうと思いました。参加してみても、「あー、なるほど静岡らしい」と納得することができる企画でした。

私は、1997年に「第23回東南アジア青年の船」に参加し、昨年の4月に就職して神奈川から静岡に引っ越して来ました。静岡には誰も友達も知り合いもないので、「暇な週末をどのように過ごそうか」と考えているときに、「静岡にもIYEOがあるのだから、そこに行けば友達を作ることができるかもしれない。」と思い、このイベントに参加しました。

当日は天気も良く絶好のハイキング日和。参加者は約30人。3割が外国人で、ブラジル、オーストラリア、スリランカ等々。静岡にはヤマハやスズキの工場がある関係で、在住外国人が多く、ときに日系ブラジル人が多数在住しています。

9時に東海道線の舞阪駅に集合し、松並木の中を歩くこと1時間。東海道の宿場町である新居の関に到着しました。ここには江戸時代の旅籠宿が当時のまま保存されており、実際に中に入ることができます。外国人の方々にはめずらしいようで、写真を撮ったり、日本人に質問をしたりしていました。

「シュラスコ」って何?

しばらく休憩し、再び東海道を西へ浜名湖沿に歩きました。歩きながら、お互いの国の文化や習慣、日本での生活について話し、その中でブラジ

ルの青年に、「シュラスコって何か知ってる?」と聞いたら、「ブラジルの代表的な料理で、塩と胡椒で味付けしたバーベキューのようなものだよ」と教えてくれ、今になってやっとシュラスコの意味がわかりました。

さらに歩くこと1時間。おなかもペコペコ、やっとのことで浜名湖のユースホテルに到着し、本日のメインイベントであるシュラスコにご対面。シュラスコは大きな肉の塊をそのまま直火で焼いた、素朴だけど広大なブラジルの平原を彷彿させる豪快な料理。その他にも、ブラジル風のサラダやパン、ブラジル特産のガラナジュースが日系ブラジル人の方から振る舞われました。普段はあまり馴染みのないブラジル料理ですが、どれもとてもおいしかったです。

サッカーで意気統合

お腹もいっぱいになり一息ついたところで、日系ブラジル人の青年が、「サッカーをやろう」と言い出しました。さすが静岡はサッカーが日本一盛んな県だけあってサッカー好きばかり。ブラジルもサッカーの本場なので意気投合し、日本選抜VS世界選抜で国際交流試合。「国家の威信をかけた試合!?!」だったので白熱した展開になりましたが、結果は引き分け。最後は両者握手をして終了。いい汗をかかせてもらいました。

静岡に来て初めてIYEOの活動に参加しましたが、「東海道、日系ブラジル人、サッカー」という静岡の特色の出ているとても良いイベントでし

た。日本各地にはその地域の特色というものがあるので、各県その特色を生かしたイベントを企画し、地域の国際交流活動を行ってみてはどうですか？ きっと盛り上がるはずですよ。また、私のよ

うに仕事の都合で引っ越しても、各都道府県にIYEOがあるので、すぐに友達を作れ、地域に溶け込めるのではないのでしょうか。今後も地域に根ざした国際交流活動を続けて行きたいです。

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構15回全国大会
第6回青少年国際交流全国フォーラム

「岐阜大会」開催決定!!

日本の真ん中・岐阜県は北部の飛騨の山から、南部の美濃の水を総称して「飛山濃水」と言われる素晴らしい景観の地です。

日 程：平成11年12月4日(土)～5日(日)

宿 泊：「岐阜ルネッサンスホテル」(長良川河畔)

世界文化遺産「白川郷」、小京都「飛騨高山」への小旅行も計画し、皆様を暖かく迎える準備を進めています。皆様のご参加をお待ちしています！

〔岐阜県 IYEO 全国大会実行委員会〕

* 去る2月27日、28日に東京において開催された日本青年国際交流機構第29回全国推進会議の場で、日本青年国際交流機構16回全国大会は北信越ブロックの富山県での開催、第17回全国大会は中国ブロック担当で山口県での開催が決定しました。

エジプト国際ボランティアワークキャンプ募集のお知らせ

在エジプト日本大使館より、エジプト政府主催のワークキャンプ参加者募集のお知らせが送られてきましたので、ご案内いたします。

主 催：エジプト青年スポーツ最高評議会

期 間：1999年8月14日～22日 (8月14日～19日：シャルムエルシークでの活動)
(8月20日～22日：カイロでの活動)

場 所：The Youth Village, Ras Nosrani City, Sharm Al Sheikh, Egypt

(シャルムエルシークは、カイロから481キロに位置する、アカバ湾を臨む世界有数のリゾート地です)

活 動 内 容：ボランティア活動(植林等) スポーツ、文化交流等のレクリエーション費用：エジプトまでの往復旅費は参加者負担。キャンプサイトまでの移動費・宿泊費・食費は青年スポーツ最高評議会が負担

参 加 資 格：18～35歳までの男性のみ

問 い 合 せ：IYEO事務局 榎まで (詳細資料をお送りいたします)

応 募 締 切：7月5日 (IYEO事務局必着)

青年海外協力隊「平成11年度春の募集」について

青年海外協力隊は、国際協力事業団が実施する政府事業で、33年間に約18,000名の協力隊員が66か国に及ぶ世界各地に派遣されました。現在も、約2,300名の隊員が59か国で活躍中です。

総務庁青少年対策本部の青少年国際交流事業の参加者からも、多くの青年海外協力隊員が出ていることを皆さんはご存じのことと思います。また、国際協力事業団の職員にも既参加青年が多く採用されています。

自分の力を海外で役立てたいと思っている貴方！ 厳しい試験ですが、チャレンジしてみませんか。

募集期間：平成11年4月15日（木）～5月31日（月）

募集規模：約142職種、約776名を募集

応募資格：満20歳から満39歳（平成11年5月31日現在）までの日本国籍を持つ方

派遣期間：2年間（単身赴任／現地生活費・国内積立金等が支給されます。）

派遣国：アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中近東、東欧の約60か国

（本人の希望は尊重しますが、協力隊員として従事する職務の内容や必要とされる技術レベルと経験、活動場所の生活環境への適応力等を総合的に判断して、派遣される国が決定されます。

選考試験：一次選考／筆記試験（技術、英語、協力隊員適正テスト）と健康診断（書類審査）

平成11年6月20日（日）、各都道府県で実施。

二次選考／面接試験（個人面接・技術面接）と健康診断（検診）

平成11年7月27日（火）～8月5日（木）の指定日（土日除く）に東京で実施。

訓練：出発前に約80日間の国内合宿訓練を受けます。

応募方法：所定の願書を協力隊事務局に提出のこと。締切／平成11年5月31日（消印有効）

〔問い合わせ・願書請求〕 〒151-8558 東京都渋谷区代々木2-1-1 新宿マインスタワー6F
国際協力事業団 青年海外協力隊事務局 ☎03-5352-7261

〔詳細資料の請求について〕 詳細資料は、返信用切手390円分を同封の上、次の宛先まで請求して下さい。

（〒163-8696 東京都新宿区新宿郵便局局留 青年海外協力隊事務局宛）

「第11回世界青年の船」帰国報告会

平成10年度の「第11回世界青年の船」参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。総務庁青少年国際交流事業について知りたいと思っている友人知人の方々に、ぜひ知らせてあげてください。総務庁青少年対策本部が行う青少年国際交流事業についての全体的説明コーナーもありますので、他の事業に興味のある方にも声をかけてあげてください。

日 時：1999年6月27日(日) 13:00～16:00

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室

参加費：無料

主な内容：船内及びトンガ、ソロモン、エクアドル、メキシコでの活動を撮影した写真や団員が持ち帰った品々の展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談等のプログラムに各国のお茶やお菓子を楽しみながら参加していただきます。

申込み：財青少年国際交流推進センターの「セミナー係」まで電話、FAX又は葉書にてお申込み下さい。宛先は、下欄の財青少年国際交流推進センター事務局へ。

ブロック大会のお知らせ

*近畿ブロック	兵庫県	7月3日(土)・4日(日)
*中国ブロック	鳥取県	7月31日(土)・8月1日(日)
*四国ブロック	香川県	9月11日(土)・12日(日)
*九州ブロック	鹿児島県	9月11日(土)・12日(日)

編集後記

財青少年国際交流推進センターもこの4月で、設立5周年を迎えました。各都道府県青年国際交流機構の力も徐々に増してきました。夢は大きく

持って次のステップを踏みたいものです。

各都道府県の皆さん、それぞれの故郷を大事にして楽しく頑張りましょう。

*本誌の年間講読をご希望の方は、財青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 5月号 Vol.28 1999年5月1日発行(隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

編集協力：総務庁青少年対策本部

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

日本青年国際交流機構

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

定価：198円(本体189円)

TEL 03-3249-0767

印刷所：株式会社 絢文社

FAX 03-3639-2436

TEL 03-3959-3960

e-mail LDP04056@nifty.ne.jp



◀ 第2回県大会にて「国際交流を語る会」

島根県国際交流青友会

京都府青年国際交流機構

▼ 京田辺市国際交流を考える会



福岡県青年国際交流機構



(総務庁青年国際交流事業の説明会)



香川県青年国際交流機構



兵庫県青年国際交流機構

都道府県IYEOの自主活動

IYEOでは毎年300名近い新会員を迎えます。こうした新しい仲間とのコミュニケーションを大切にすることは、信頼関係を築く第一歩です。

(平成10年度事業参加メンバーの壮行会)



高知県青年国際交流機構



石川県青年国際交流機構



三重県青年国際交流機構

(平成10年度事業参加メンバーの報告会)

福井県青友会



鹿児島県青年国際交流機構